

令和4年度第1回 第三次多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会 要点録

日 時 令和4年5月19日（木）午前9時40分～12時  
場 所 多摩市立図書館 本館 講座室  
出 席 おはなしチャチャチャ、コアラ文庫、多摩おはなしの会、  
多摩市文庫連絡協議会、もりの文庫、布の絵本サークル ピエロ、つくしんぼ文庫  
欠 席 ひなたぼっこ、ひなの会

開会

（事務局）

（資料の確認）

- 1 令和3年度第3回 第三次多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会 要点録（案）の確認

（多摩おはなしの会）

- ・ 9頁13行目 内容追加をお願いしたい。

（会長）

- ・ 他に特に意見がないため、指摘箇所を修正し、確定とする。

2 報告事項

- （1）令和3年度第三次多摩市子どもの読書推進連絡会等の開催状況

（事務局）

（資料1に沿って説明）

（会長）

- ・ 意見や質問がないようなので次に進む

(2) 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画 各連絡委員

(事務局)

(資料2に沿って説明)

(会長)

- ・意見や質問がないようなので次に進む

(3) 令和3年度各館おはなし会の実績

(事務局)

(資料3に沿って説明)

(つくしんぼ文庫)

- ・おはなし会の参加人数について、子どもと大人の数わかる報告書の方が良いのではないかと。全体の参加人数が多い方がいいのではなく、子どもの参加人数が重要である。おはなし会の内容を定めるためにも、子どもの人数がわかったほうが良いと思う。

(多摩おはなしの会)

- ・昨年度の会議でも子どもの参加人数について明確にするよう伝えた。毎回のおはなし会ごとの報告書では子どもの年齢別に詳細を報告している。今後おはなし会のやり方を考える上でも子どもの参加人数がわかるようにしてほしい。関戸と聖ヶ丘のおはなし会参加人数を集計したところ、関戸では参加者の半数が大人で、聖ヶ丘では四分の一が大人の参加であった。付き添いとしての大人が多いと思うので、子どもの数を把握するのは大事である。

(コアラ文庫)

- ・参加人数の全体集計数を口頭で報告するのではなく、記載してほしい。

(もりの文庫)

- ・コロナ禍以前と比較し、どの程度まで参加人数や状況などが回復しているのかがわかるとよい。

(事務局)

(コロナ禍以前の数字を参考までに口頭にて報告)

(会長)

- ・昨年度より増えた、コロナ禍以前に数字が戻った、という事だけがいいことではない。色々な視点をもって今後のおはなし会を構築していくきっかけにしていきたい。

(4) 令和3年度子どもの読書活動に関する事業（実績）

(事務局)

(資料5～7に沿って説明)

(コアラ文庫)

- ・電子書籍やLLブック、マルチメディアデジターなどの利用状況は「多摩市の図書館」にデータ化された資料として出てくるのか。

(事務局)

- ・次回、貸出数値等を伝える。

(もりの文庫)

- ・電子書籍については「値段が高く、あまりいいコンテンツがない」と聞く。市場が整っていない状況で、手を出す必要性はあるのか。いいものならば高くとも仕方がないと思う。ただ目新しいものに飛びつく、という形にならないようにしてもらいたい。

(5) 令和4年度子どもの読書活動に関する事業予定（主なもの）

(事務局)

(資料8に沿って説明)

(コアラ文庫)

- ・「よんでみよう」の改訂作業や「多摩市立図書館ニュース」など、企画作成はどこが部署が担当しているのか。関わっている職員、非常勤の割合はどのようになっているのか。

(事務局)

- ・「よんでみよう」は子ども読書支援係が中心になって行っている。全館ではないが分館の児童書担当職員も作成に加わっている。
- ・「多摩市立図書館ニュース」は子ども読書支援係で企画、作成している。

(もりの文庫)

- ・家庭での読み聞かせという講座について。コロナ禍での開催が気になる。

(事務局)

- ・感染症対策を講じた上で行う予定である。

(会長)

- ・内容について、どういったことが問題点としてあげられるか。(感染症対策を除く)

(多摩おはなしの会)

- ・内容の吟味がとても重要である。早期教育を目的とするのではなく、乳幼児に絵本を読み聞かせる意味や、赤ちゃんが言葉を獲得する上で、周りの大人がどのような役割を果たすべきなのかをしっかりと考えるべきである。図書館が行ってきた赤ちゃんおはなし会の経験を活かして、充実した内容になればよいと思う。

(もりの文庫)

- ・「読み聞かせ」は乳幼児よりも大きい子に対して行う。乳幼児という言葉を獲得する以前の子ども達に行う読み聞かせは、どの様に行うか慎重に考えなければならない。

(つくしんぼ)

- ・技術的なことではなく、母親がどのような姿勢で子どもに絵本を届けるのか、ということ伝えることが大事であると思う。

(コアラ文庫)

- ・講師選びも重要である。自分たちの価値観も含めて、これらの話題を慎重に考えなければいけない。子どもが言葉を獲得し、好みを身に着け育っていく過程で、自分たちは経験や願いを込めて接していきたいが、子どもたち本人にとって迷惑行為にならないように注意を払っていきたい。そのポイントをおさえた講師を選んで頂きたい。

(つくしんぼ)

- ・読み聞かせではなくわらべうたのほうがいいのではないか。

(事務局)

- ・昨年と同じ講師を考えている。内諾は頂いている。
- ・子どもの対象年齢は3ヶ月～1歳児を考えている。

(コアラ文庫)

- ・会場は本館か。パルテノンの4階なども候補にしてはどうか。

(おはなしチャ)

- ・親子限定か、大人のみ(自分たちのような人)は参加できないのか。会場に余裕があれば、傍聴席を設けてもいいのではないか。

(事務局)

- ・会場は未定である。受講者が足を運びやすいところを考えている。
- ・10組くらいの保護者と子どもを考えている。(親子限定ではない)
- ・40分程度の内容を考えている。
- ・入れ替え制にして、講座を2回(全20組が受講できる)行うことを考えている。
- ・家庭で絵本を楽しむ、という習慣を取り入れてもらえるような趣旨で内容は検討中である。

(多摩おはなしの会)

- ・傍聴席を用意するなら赤ちゃんおはなし会を行っている職員、ボランティアを研修という意味を込めて優先させるべきではないかと思う。

(会長)

- ・様々な角度からの意見が出た。毎回時間がない、という事で割愛されがちだが、今回のように意見交換ができればよい。企画を進行するうえで意見を活用頂きたい。

### 3 意見交換

(1) 第14回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》について

(会長)

- ・事務局から資料9に沿って説明の後、第13回の反省を含めて意見交換を行いたい。

(事務局)

(資料に9に沿って説明)

#### 第13回ほんともフェスタの反省

(多摩市文庫連絡協議会)

- ・コロナ禍で打合せなどを行う時間がなかったためか、第13回ほんともフェスタの概

要を聞いた時には講演会講師が決定し、大枠が決まっていた。相談も報告もなかった。

- ・2、3年前、ほんともフェスタについて今後どうするかという話が持ち上がった際、とりあえずの形で「図書館が主導で開催する」という事になったと記憶している。それがそのまま踏襲され、図書館サイドのみのイベントになってしまっているように感じる。
- ・第13回ほんともフェスタのチラシでは講演会が外側に、特別おはなし会の情報が内側にある。ほんともフェスタはイベント開催が目的ではない。
- ・以前はほんともフェスタの期間は1週間だったが、普段の活動を大事にしようという事で1ヶ月開催になった。チラシに掲載する情報に定例おはなし会の情報が掲載されず、特別おはなしのみではおかしい。「初めての方もどうぞ」という記載があるのにも関わらず、定例のおはなし会はHPを見なければわからないというのはとても不親切だと思う。
- ・日ごろの活動と特別おはなし会が一覧で分かるようにしてほしい。第13回ほんともフェスタのチラシではほんともフェスタの全体像が見えないと思う。第14回ほんともフェスタのチラシを作成する際は「ほんともフェスタを行う目的はなにか」という事に注意し、本来の目的を大事にしていきたい。

#### (多摩おはなしの会)

- ・多摩おはなしの会の定例会議の中でも、ほんともフェスタのチラシに定例のおはなし会が掲載されていないのはおかしいという意見が出た。
- ・ほんともフェスタのあり方、目的があやふやになってきているのに第14回ほんともフェスタが話題に上がることがおかしい。

#### (コアラ文庫)

- ・本館の引っ越しがあるため、第14回ほんともフェスタは実施しないのではないかと考えていた。計画が持ち上がり嬉しく思う。
- ・ほんともフェスタのあり方については、基本に戻って考えていきたい。今後も継続していく事業だからこそ、市民協働をお互いに考えていかなければならないと思う。
- ・コロナ禍という特別な条件下であるにせよ、昨年度よりも丁寧な相談、連絡や情報提供を頂いて協力していきたい。ベルブ永山での展示など、人手が入用な際には自分たちでもお手伝いできるかもしれない。

#### (つくしんぼ)

- ・文庫連や多摩おはなしの会の意見のとおりであると思う。ほんともフェスタの方向性

- を今一度考えた上で、第 14 回ほんともフェスタについて考えるのが正しいと思う。
- ・つくしんぼ文庫は昨年度、コロナ禍という事で特別おはなし会は行わなかった。チラシでは「定例のおはなし会を開催する」という文言で片づけられてしまっていたため、毎週いつ行われているか触れられていなかった。

(布の絵本サークル ピエロ)

- ・ほんともフェスタを行う中で、図書館はボランティアの存在をどのようにとらえているのかわからない。当初は「一緒にやってみましょう」という感じだったが今は「ボランティアはおはなし会だけやって下さい」と言われているように受け取れてしまう。

(もりの文庫)

- ・第 13 回ほんともフェスタのチラシに、定例おはなし会が掲載されないという事は、決定事項になっていたため仕方がないと思った。が、第 14 回ほんともフェスタに向けて素通りできる話題ではない、重要なことだと思う。多摩おはなしの会の関戸図書館でのおはなし会の報告書にも記入したが、事務局に伝わっていないのなら残念に思う。
- ・特別おはなし会に対する考えが統一されていないのではないかと思う。私たちが定例おはなし会を補強する意味で行うか、図書館からの依頼で定例を特別にするのか、双方の意思を一致させた方がいいのではないかと思う。
- ・ほんともフェスタを昨年踏襲という形で行うことに意味があるのか疑問である。

(多摩おはなしの会)

- ・中央図書館の開館にあたっては、本当に市民が待ち望んでいることだと思う。私たちも何かの形でお手伝いや支援ができればよいと思っている。
- ・第 14 回ほんともフェスタを行うのであれば、今までの反省を踏まえなければいけないと思う。
- ・繰り返しになるが、第 13 回ほんともフェスタのつくしんぼ文庫の特別おはなし会については、コロナ禍で会場や参加人数が限られ、来館する気持ちのある子どもに制限をかけてしまうことを危惧したため特別おはなし会は行わないという結論になった。図書館側が感染症に対して考えている姿勢に合わせた。その分、定例のおはなし会を充実させようという方向性になった。しかし、第 13 回ほんともフェスタのチラシの掲載方法ではとても消極的な書き方になっている。初回の校正を行ったとき、自分たちの意思が図書館に伝わっていないと感じた。

(多摩市文庫連絡協議会)

(資料 第三次子どもの読書活動推進計画アクションプラン【令和3年度版】P48③ 提示)

- ・資料にあるとおり、ほんともフェスタについて調整検討することになっているはずだが、現在は手つかずの状態だと思う。すぐに解決できることではないが、地道な話し合いが必要であると思う。

(事務局)

- ・2019年に審議を行っている。その際にも委員の皆様には意見を頂戴しているが決定には至らなかった。検討を重ねている間にコロナ禍となり、ほんともフェスタは「当面続ける」ということを優先してきたため、現状にいたっている。
- ・現在懸案になっているのは中央図書館のオープニングイベントとほんともフェスタの方向性についてである。前回の会議では委員同士での話し合いをしてはどうか、という話も出ていた。
- ・次回以降の会議で、2019年に審議した内容を会議録も含めて確認をして、検討の続きをしていくのが良いと思う。
- ・ほんともフェスタについては、続けていくという事を図書館として非常に大切にしている。しかし準備期間が迫っているため、第14回ほんともフェスタは開催する方向でいきたい。まだ方向性が決まらず、コロナについても収束して安定した時期ではないため、昨年と同様のパターンを提案した。
- ・ほんともフェスタのあり方を検討し、方向性を決定した際には、いつからその体制にするのかという事も含めて今後意見を交換していただきたい。継続してできるという事も非常に大切であると考えている。

(もりの文庫)

- ・定例のおはなし会をチラシに掲載することは譲れないことである。ほんともフェスタの期間中に講演会やイベントを開催するにしても、定例のおはなし会を市民に定着させていくという目的を避けてはいけないと思う。次回を開催するにあたって、この件が改善されなければ承認はできないと思う。

(多摩おはなしの会)

- ・自分たちの団体も、今年度はほんともフェスタを行わないと思っていた。だが図書館が提案してくるのならば、応援したいと思う。内容については話し合いを重ねていきたい。
- ・展示などについてはこのまま進めていってよいと思う。

(コアラ文庫)

- ・各学校の司書さんの努力により、展示の内容が年々よくなっている。特に中学校では「授業に学校図書館を取り入れる」という姿勢が見えてくるようになった。展示については来年以降も継続していくべきだと感じている。

(多摩市文庫連絡協議会)

- ・中央図書館についての広報も、工事現場を普段見ない市民にとって、進捗状況がわかる良い機会だったのではないかな。
- ・児童研究室の古い本の展示もとても良かった。

(コアラ文庫)

- ・児童研究室の展示本については文庫の定例会でも話題になった。

(事務局)

- ・グリナード永山で行う展示は子ども読書支援係だけではなく、図書館全体で協力して行っている。次回以降もいろいろな内容を検討していきたい。
- ・ほんともフェスタのチラシについては、紙面を増やすことはできない。おはなし会の掲載については、定例と特別の両方を紙面に掲載した場合、文字が小さく読みにくいものになってしまうという事をご理解いただきたい。そのため、第13回ほんともフェスタは定例おはなし会の情報を個々に記すのではなく、HPをご覧下さいという書き方にした。

(もりの文庫)

- ・特別おはなし会にきてくれた人に対して、別紙として定例おはなし会のチラシを渡せばよいのではないかな。無理にチラシの中に収めなくともよいと思う。特別おはなし会に来た人、定例おはなし会に来た人それぞれのアピール方法を検討していきたい。

(事務局)

- ・今後話し合いを重ねながらチラシの紙面を作成する。

(コアラ文庫)

- ・講演会についての詳細は決まっているのか。第11回ほんともフェスタが中止になったためお呼びできなかった村岡氏、石津氏を迎えてはどうか。中央図書館のオープン記念の講演会としてもよいのではないかな。

(2) 第三次計画の進捗状況について

(令和3年度版アクションプランについてご意見、ご感想)

(会長)

- ・時間の都合上、次回会議の議題とする。

#### 4 連絡事項

(1) 多摩市立図書館ホームページ 団体のご紹介のページの更新について

(事務局)

(資料に11に沿って説明)

(つくしんぼ)

- ・活動場所についてはコロナの為変更しているのだが、書き換えた方が良いのか。

(事務局)

- ・随時情報は更新できる。連絡を頂ければその都度情報を更新する。

次回の日程

6月23日(木) 13時30分～16時 講座室にて

(多摩市文庫連絡協議会)

- ・「文庫連だより」を配付する。

閉会

(午前12時 終了)